

HERO5
Sportsmanship for
the future



誰かのため、
社会のため、
未来のため

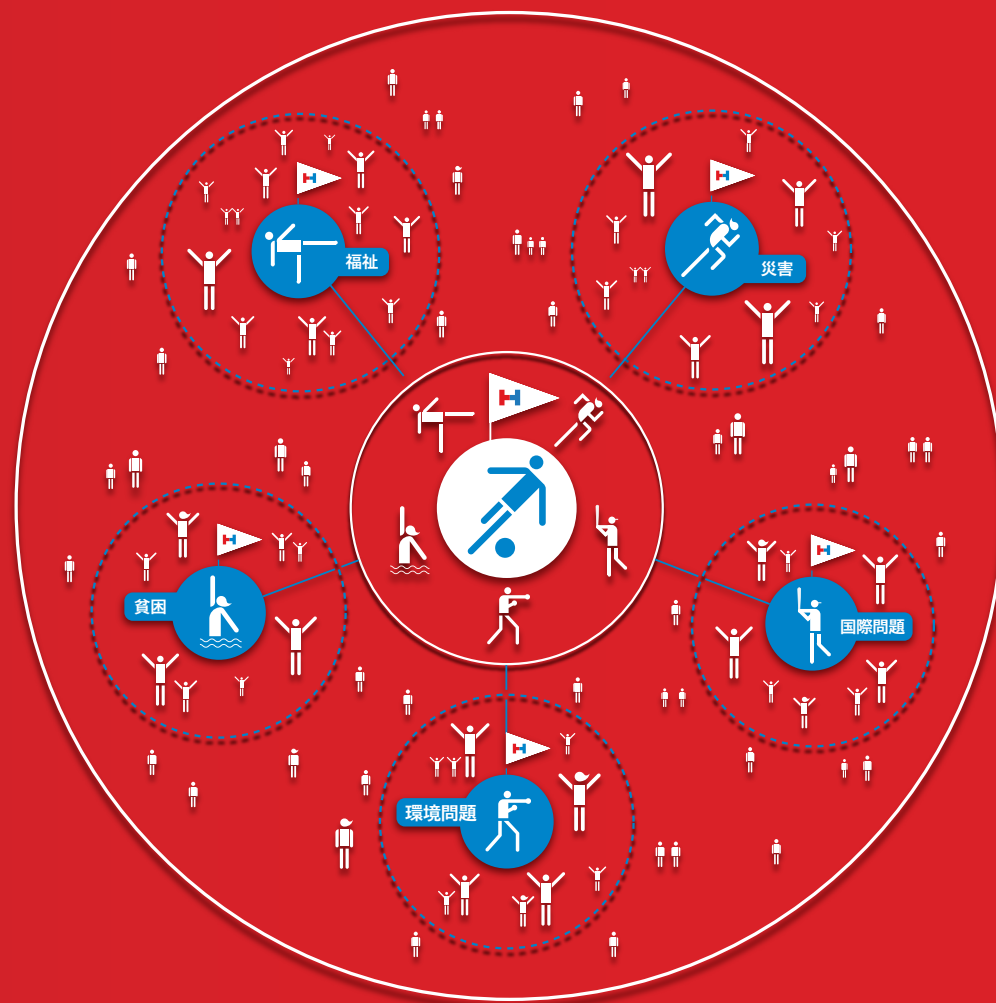
ABOUT HEROs

HEROsは、 社会課題解決の輪を 広げるための プラットフォームです。

アスリート達が中心となって活動することで、
スポーツでつながる多くの人の関心や行動を生み出し、
社会課題解決に取り組む人が増えていく。

そして、それらの活動がさらに多くの人の共感をつくりだし、
いずれ世の中の当たり前になっていく。

それが、HEROsの目指す社会です。



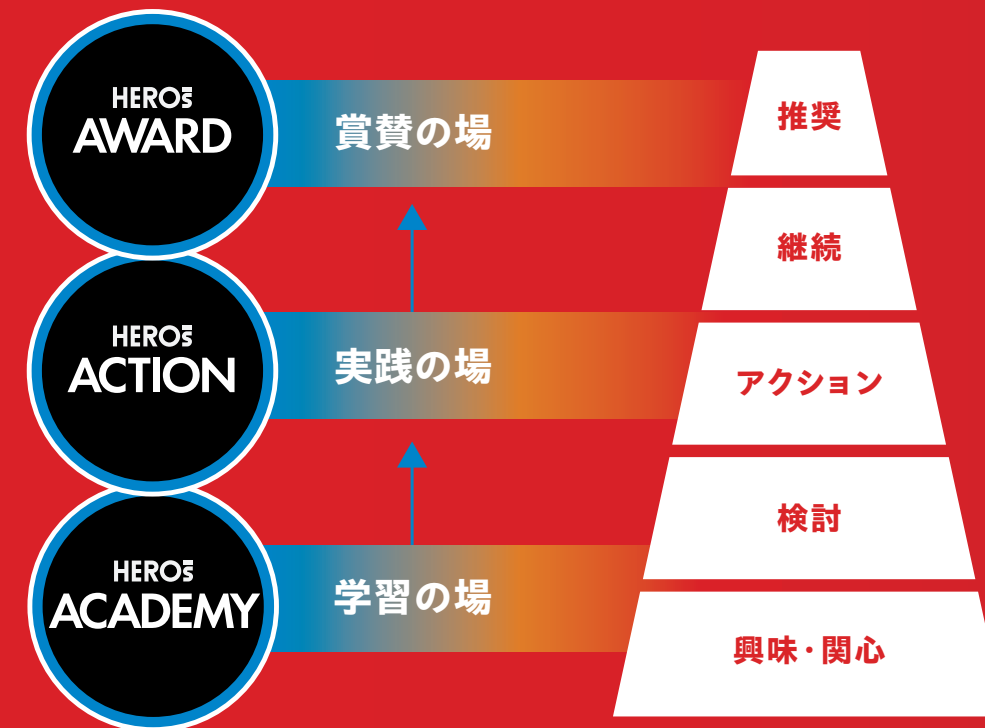
社会課題解決に取り組む日本財団のプロジェクト

HEROsを構成する3つの事業

3つの“A”を通して、スポーツの力で社会課題解決の輪を広げる

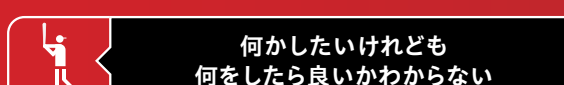
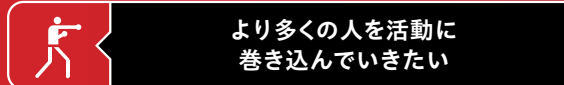
HEROsの3つのA

社会課題解決の輪を広げるための
ピラミッド構造



対象イメージ

(アスリートの社会貢献に対する関心・行動レベル)



AWARD

HEROたちの活動を表彰し、社会へと発信する年1回の祭典

ロールモデルとなる取り組みを表彰することで、社会貢献に興味を持つ人を増やし、次なるアクションを生む



2021 WINNERS



アスリート部門賞

寺田 明日香 (陸上選手)

A-START

コロナ禍の学生アスリートを自らの合宿に招待
経験を伝え、次の世代を育成



アスリート部門賞

村田 兆治 (元プロ野球選手)

離島甲子園

全国の離島の中学生球児たちの野球大会を開催
野球の力で離島の子どもたちに夢を



チーム・リーグ部門賞

千葉ジェッツふなばし

JETS ASSIST

選手を中心とした地域貢献活動を実施
チームをハブにみんなで取り組む



特別賞

AI (アーティスト)

SDGsをテーマとしたメディアを開設
ファンと一緒に身近にできるアクションを広げる

2017-2020 WINNERS

HEROs OF THE YEAR 2020



AFRICA DREAM
SOCCER TOUR
supported by SHOWA GLOVE

本田 圭佑 (プロサッカー選手)

HEROs OF THE YEAR 2019



サッカーを通じた
共生社会づくり

北澤 豪 (一般社団法人
日本障がい者サッカー連盟)

HEROs OF THE YEAR 2018



スポーツを通じた、
長期療養児童支援

北野 華子 (特定非営利活動法人
Being ALIVE Japan)

HEROs OF THE YEAR 2017



国際貢献
「マリモストー小さな橋」

宮本 恒靖 (特定非営利活動法人 Little Bridge)

審査基準

- ① 社会貢献活動の成果、規模、持続性等
- ② 社会貢献活動に至るまでのストーリー

受賞者への支援

- ① 活動奨励金300万円の贈呈
- ② HEROsや日本財団が持つアセットを提供

ACTION

HEROsアスリートたちによる実践活動

ソーシャルアクション プログラム

日本全国の様々な社会課題の現場におけるアスリートの活動
日本財団が行う事業と連携して実施

活動事例



**困難に直面する
子どもたちの支援**
(子ども第三の居場所)



**社会復帰に向け
た更生支援**
(少年院更生・職親プロジェクト)



**被災地にお
ける復興支援**
(災害復興支援)



**海洋ゴミ対策
ビーチクリーン活動**
(海と日本プロジェクト)

オリジナル プログラム

「面白そう」「カッコいい」、社会貢献のイメージを変えるHEROs企画のイノベーションプログラム

HEROs LAB

2020年より
実施

『次世代のHERO育成』

アスリートがスポーツで培った価値観や考えを伝え、
社会に対する意識の向上と行動のきっかけを作る
学校訪問イベント



『中村憲剛がピッチ内外で示した、
アスリートとしての生き方』@中央大学

中村 憲剛
(元プロサッカー選手)

HEROs DREAM

2021年より
実施

『ファンと実現する社会課題解決の輪』

アスリートが特別な体験を企画し、ファンは寄付で参加抽選券を
獲得する、誰もが気軽に参加できる寄付連動型プロジェクト



『ウルフ アロン選手による柔道レッスンと座談会!』

ウルフ アロン
(柔道選手)

HEROs 新プロジェクト

『みんなで行う社会貢献イベント』

アスリートとファンが楽しみながら
社会課題解決に取り組む1Dayイベント



2023年、始動予定!

ACADEMY

アスリートの新たなアクションを後押しする学びの場

HEROES ACADEMIA

全12回3か月、競技を超えたアスリート同士で学び、高めあう学習プログラム

多様な講義を通してスポーツで得られた自身の価値や強みを認識し、社会で広く活かす可能性を探る

2021年より
実施

講師や講義内容の例

※講義だけでなく、ワークショップ等のアウトプット機会も掛け合わせたプログラム



引退との 向き合い方

斎藤 佑樹
(元プロ野球選手)



スポーツの 社会的価値

村田 諒太
(プロボクサー)



海外に見る スポーツのチカラ

佐伯 夕利子
(元Jリーグ常勤理事)



社会課題の 理解

安部敏樹
(一般社団法人リディラバ 代表)



スポーツの ビジネス的価値

村井 満
(元Jリーグチェアマン)



セルフ プロデュース力

那須 大亮
(元サッカー選手)

受講生の声



“1歩踏み出す勇気をもらい行動力が
上がりました。現役中から学んだことを
活かしていきたいです。”

磯村 嘉孝
プロ野球選手



“同じ志、同じような悩みを持った
仲間と出会い、学びから次へのヒントを
見つけられる場所です。”

橋本 英郎
プロサッカー選手

HEROES SCHOLARSHIP

アスリート向け奨学金制度

自身の可能性を広げ、社会で活躍するアスリートを後押し
年2回(6月・12月)募集

2021年より
実施

対象プログラム

競技以外のスキルアップ
研修プログラム

(大学、大学院、海外プログラムも対象)

支援内容

上限50万円
(海外は上限100万円)

奨学生の例



大野 均
元ラグビー選手



大西 雅継
元力士(元嘉風)

TEAM

HEROsの活動を支えるアスリート

AMBASSADORS HEROsプロジェクトを推進し、活動の輪を広げる各競技を代表するレジェンドアスリート



MEMBERS HEROsの活動を共に盛り上げ、目指す社会の実現を牽引するトップアスリート

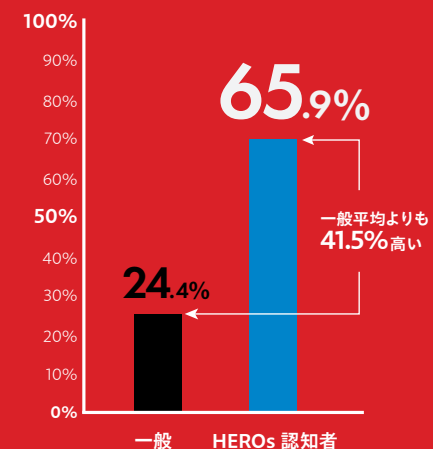


DATA

データでみるHEROs

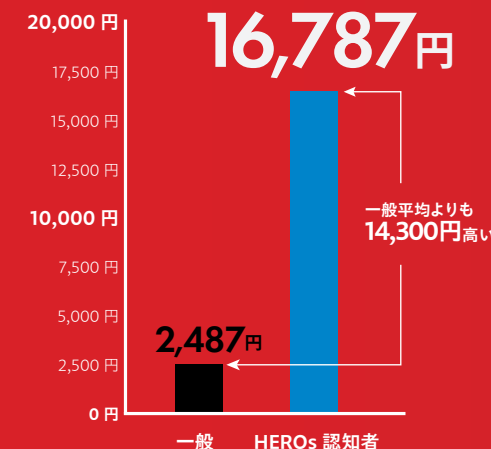
HEROs認知者の社会貢献への興味度

※2022年1月調査



HEROs認知者の1年間の平均寄付金額

※2022年1月調査



HEROs LABに参加した学生の数

約5,800人

2020年8月~2022年3月

活動支援制度を資金援助を受けた事業の数

45事業

2018年~2022年3月

HEROs SCHOLARSHIP 奨学生

12人

2021年~2022年3月

HEROs AWARDに参加したアスリート等の数

978人

2017年~2021年累計 ※2020年は表彰のみ

HEROs ACADEMIA 受講生

47人

0期+1期

HEROs AWARD2021 エントリー数

61件

2021年実績

HEROsの活動紹介中!

HEROs活動実績



HEROs活動レポート



FACEBOOK



Twitter



YouTube



Instagram



NOTE



TikTok



Google Japan

企業 × HEROs

スポーツ × テクノロジーで 誰もが自由な社会に

鈴木氏：Project Guideline は、視覚に障がいのある方が一人で自由に走ることを可能にするための研究開発プロジェクトです。私は、主にクリエイティブやテクノロジーの検証を担当しています。

田丸氏：私は、プロジェクトが日本に導入された際、視覚障がいのある当事者として実験に参加させていただきました。その後、実際に視覚障がい者にとって使いやすい製品、サービスを生み出すために、プロジェクトにも参画するようになりました。



鈴木氏：日本財団 HEROs にパートナーとしてご協力いただいた背景には、「未来を担う若い世代にも、Project Guideline を体験してもらうべきではないか」という思いがあったからです。HEROs プロジェクトでは、アスリートと子どもたちが交流する場が生み出されていることを知り、そこに Project Guideline の体験会を組み込めなにかと思いご相談しました。日本財団HEROsにサポートいただいた内容としては、筑波大学附属視覚特別支援学校との体験会実施に向けて、当学校と我々をお繋ぎいただき、体験会実施に向けた支援をしていただきました。また、パラ柔道の初瀬勇輔（はつせゆうすけ）選手を派遣いただき、成功から挫折まで、自身のさまざまな経験を子どもたちに伝えていただきました。子どもたちも初瀬選手にたくさん質問をしていましたし、貴重な機会だったと思います。



田丸氏：視覚障がい者にとって、さまざまな自己実現の形を知ることは大切です。障がい者の世界は、すごく狭い。自分ができることは何なのか、健常者との違い、これからどう生きていくのかなど、分からないことがたくさんあります。同じ境遇にしながら活躍しているパラアスリートと触れ合うことで、子どもたちが自身の将来を考えるきっかけになったと思います。

鈴木氏：Googleのテクノロジーと、日本財団 HEROs がこれまで培ってきた障がい者支援の知見やアスリートとのネットワークなど、両者の強みを組み合わせ、今後も社会により良い影響を与えられる取り組みを展開していきたいと考えています。

特定非営利法人
Being ALIVE Japan

NPO団体 × HEROs

スポーツで、長期治療中の こどもの青春をつくる

Being ALIVE Japan (BAJ) では、長期療養中の子どもたちにスポーツを通じて「青春」をつくるために様々な活動を行っています。子どもたちをチームの一員として受け入れていただき、練習などに参加する入団事業や、病院にアスリートやチームが訪れてスポーツ活動を提供する事業等を行っています。



私自身、幼少期に長期治療経験しており、当時、治療を頑張る目標は運動会や文化祭でした。治療を頑張った先に叶えたい青春があったため治療生活を前向きに過ごせました。また、96年のアトランタ五輪をきっかけに病気が障がいのある人たちがスポーツをする環境が整い、雇用や社会インフラも変わったことをアメリカの大学院で学びました。スポーツを通して新しいコミュニティと出会い、人生がさらに豊かになる。スポーツには、社会と人をつなげる力があると思ったのです。

これらの経験から、長期療養中の子供たちにスポーツを通じた「青春」を味わってほしいと思い、当団体を立ち上げました。団体を立ち上げて以降、日本財団をはじめ多くの方の協力を得て、チームやアスリートとの活動を広げています。B.LEAGUE のクラブの活動が展開できたのは、日本財団とB.LEAGUE が連携して『B.LEAGUE Hope』という社会貢献プログラムを実施していた背景があったからでした。そして、その成果が認められ、2018年にはHEROs OF THE YEARを受賞させていただいています。



それまでは、スポーツをする場所の確保や活動資金が課題でしたが、日本財団からの支援金や施設やアスリートとの繋がりを活用することで、スポーツを通じて、病気の子どもたちが多様な体験にチャレンジできる機会を築くことができていると思います。スポーツ体験やアスリートとの交流は、子どもたちが仲間と一緒にチャレンジできる楽しさを感じるきっかけになっています。スポーツによって、子供たちの可能性の幅が広がっていると実感します。スポーツを通して友達を作ったり、新たな目標ができたりなど、一人でも多くの病気の子どもたちに人生を豊かにする体験をしてもらいたいと思いますし、今後も日本財団（HEROs）と協力して活動を拡大していきたいです

湖南学院 教育・支援部門

行政 × HEROs

アスリートの言葉が、 少年院の子供たちの心を変えた



私は23年に渡りこの仕事をしていますが、ここ数年で少年院に入る子供たちのバックグラウンドに変化があります。かつてのように暴走族に入っていてその活動の中で起こした傷害・暴行事件により少年院に入る子供たちは少なくなりました。家庭環境や社会環境によって居場所や心の拠り所を失い、非行に手を染める子供たちが増えており、社会がそういった子供たちの存在に気づき、寄り添ってあげる場作りが必要だと感じます。そういった子供たちに対し、HEROs に関わるアスリートの方々が成功や挫折の経験、未来への指針を伝えてくれるのは非常に意味があることです。

HEROs との連携のきっかけは2019年、元ハンドボール日本代表の東俊介さんが（湖南学院が所在する）石川県出身ということで、個人的に取り組む活動の一貫で講演にいらっしゃり、その際にサポートに入っていたのが HEROs でした。この講演で東さんから発せられた言葉が非常に子供たちに響いており、同じような活動を増やしたいと思い、HEROs のホームページから問い合わせをしました。その際にホームページには、様々な取組事例があって、そのどれもが魅力的で「これと一緒に何か取り組みたいな」と感じさせてくれたことを覚えています。



具体的な連携として、HEROs アンバサダーであり、元車いすバスケット日本代表の根木慎志さんに来ていただき、講演会と車いすバスケットの体験会を実施しました。HEROs ACADEMIA を受講していたアスリート3名にも参加していただいたのですが、彼ら彼女らが成功者になる前に味わった多くの挫折や苦労の話で、子供たちの心が動かされていると非常に強く感じました。スポーツをしていた子供たちも多いため、彼らの人生と重なる部分もあるからこそ、響いたのではないかと実感しています。

車いすバスケットの体験会では、皆が目を輝かせて活発に動いて、スポーツの力が人をまとめて人を動かす明るくし心に変化をもたらすものなのだと感じました。この経験を通じて非行犯罪に向かっていたときの心の矢印が変わると思いますし、今後も HEROs とアスリートの方々に協力していただいているような活動を続けていきたいです。

巻誠一郎

アスリート × HEROs

HEROs アスリートの活動が、 刺激になった

熊本地震の被災地支援活動を行っていましたが、その活動がHEROs AWARD 2019 に選出されたことをきっかけに、日本財団 HEROs との取り組みがスタートしました。さまざまな競技のアスリートが取り組んでいるユニークな活動を目にする機会が増え、すごく刺激を受けています。



僕自身、災害で生活が苦しくなった子どもたちに、サッカーを通して夢を与え、育むプロジェクトを展開しています。日本財団 HEROs には、その活動の資金面の支援をいただいています。また、日本財団 HEROs が運営する『子ども第三の居場所』という事業にも協力させていただきました。チームで課題を解決するサッカーは、子どもたちの協調性、自立を養うにあたって、最適なツールであると実感しました。さらにアスリート同士の繋がりも生まれ、以前熊本で開催された車いすバスケの体験会にも参加したりもしています。



アスリートには、課題を見つけて解決するという能力が備わっている上に、子どもたちの憧れとなる存在でもあるので説得力もあります。HEROs などのプロジェクトに参加しながら、発信力という武器を生かして、経験を社会に還元していくべきだと考えています。なにより、現役のアスリートの方にもぜひ積極的に社会貢献活動に取り組んでほしいです。自分の強みを生かして社会を変えることができるし、引退後のセカンドキャリアに向けて、自分の価値を高めることにも繋がります。社会との接点やアスリート同士の繋がりが生まれ、競技生活で培った能力を社会に還元する基礎をつくることができると考えています。

活動してみないと分からないことはたくさんあります。僕は、困っている人のために行動するとき、自分でも想像できないくらい大胆なアクションを起こすことができました。そしてそれを機に、困っている人のため、社会の課題を解決するために、信念をもって活動を続けたいと思いました。日本財団 HEROs と連携することは、様々な広がりを生むきっかけになったので、今後も連携し、活動を広げていきたいと考えています。



活動に興味のあるアスリートや、HEROsと連携して取り組みをしていきたい企業や団体の皆様



活動を支援したい方
(寄付したい方)



自身が行う活動への資金支援を希望する方

総合窓口：日本財団 経営企画広報部 HEROsチーム

Mail : heros@ps.nippon-foundation.or.jp